



2024年3月28日

各 位

会社名 株式会社京葉銀行
代表者名 取締役頭取 熊谷 俊行
(コード番号 8544 東証プライム)
問合せ先 執行役員経営企画部長 深山 孝夫
(TEL. 043-306-2121)

企業理念および長期ビジョン、第20次中期経営計画について

株式会社京葉銀行（頭取 熊谷 俊行）は、企業理念を再定義するとともに、創立 90 周年に目指す姿である長期ビジョンと、その実現に向けた第 20 次中期経営計画を策定しましたので、以下の通り概要をお知らせします。

私たちを取り巻く経営環境は、人口減少や少子高齢化といった構造変化に加え、サステナビリティへの意識の高まりやデジタル化の進展といった歴史的な構造転換により、変革が進むとともに、そのスピードも加速しています。さらには、コロナ禍を経た人々の行動様式や企業活動の変化を背景に、地域社会やお客さまの課題は、年々多様化・高度化していくことが予想されます。


このような環境変化が激しく将来の予測が難しい時代にあって、京葉銀行グループでは、2023 年 3 月に迎えた創立 80 周年を契機に、あらためて私たちの存在意義や使命を見つめ直すとともに、いかに地域社会やお客さまの課題解決を実現していくかについて、「全員参加型」で議論を深めてまいりました。その結果、グループ全従業員の進むべき方向を合わせていくため、企業理念を再定義するとともに、創立 90 周年に目指す姿である長期ビジョンと、その実現に向けた第 20 次中期経営計画を策定することとしました。

長期ビジョンは、社会価値と経済価値の両立をテーマに、京葉銀行グループが創立 90 周年に目指す姿をバックカスティング思考で策定し、「お客さま満足度No.1 のソーシャル・ソリューショングループ」を目指し、経営資源の次世代化により、社会課題の解決力を強化してまいります。また、第 20 次中期経営計画は、長期ビジョンのフェーズ 1 として、社会課題の解決力強化に向け、成長エンジンの再構築を図る 3 年間と位置づけ、4 つの基本戦略を推進します。そして、ターゲットとして、財務 K P I とサステナビリティ K P I を設定し、2 つの K P I を実現することで、社会価値と経済価値の両立による企業価値の最大化を目指してまいります。

I. 企業理念の再定義

京葉銀行グループ企業理念のほか、企業理念を広く共感していただくため、コーポレートスローガンおよびコーポレートシンボルを再定義しました。また、企業理念を実現するために、グループ全従業員が共有すべき行動基準として、私たちが大切にしている価値観を新たに制定しました。

1. 京葉銀行グループ企業理念

プラス  の価値を提供し、地域の豊かな未来をともに築く

➤コーポレートスローガン

プラス  で、未来をともに。

京葉銀行グループ企業理念について、広く共感いただくためのコミュニケーションワードです。

地域、お客さま、株主、従業員などのすべてのステークホルダーの皆さまに、京葉銀行グループ企業理念を体感いただくことを目指し、コーポレートスローガンを中核に、コミュニケーションを深めていきます。

➤コーポレートシンボル



「α」の文字が描く重なりと上方へ伸びてゆくラインは、人と人との“きずな”と、そこを出発点に無限に伸びてゆく未来をあらわしています。

コーポレートシンボルの「アルファバンク」は、

“人とのきずなを大切に、豊かな未来を切り拓いてゆきたい”

“常に皆さまにプラスアルファを提供し続ける銀行でありたい”

そんな京葉銀行の思いをあらわしています。

2. 私たちが大切にしている価値観

お客さま第一

すべての原点は
「お客さまのために」

挑戦と成長

たゆまぬ挑戦で
「成長を喜びに」

チームワーク

風通しの良い組織で
「多様性を力に」

II. 長期ビジョン

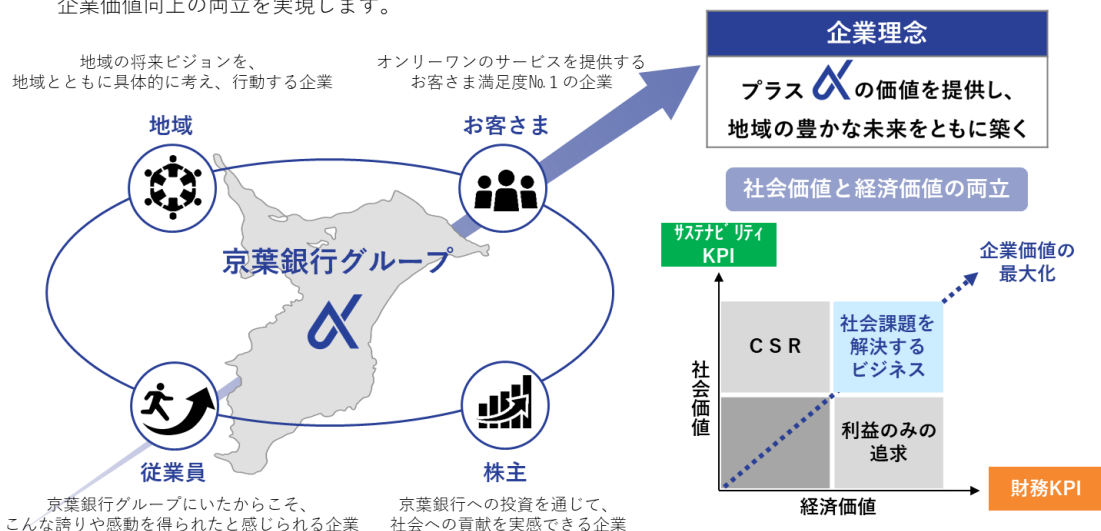
京葉銀行グループが 2033 年 3 月の創立 90 周年に目指す姿を、長期ビジョン「+αVision 90」～未来創造への挑戦～として決めました。

1. 京葉銀行グループが創立 90 周年に目指す姿

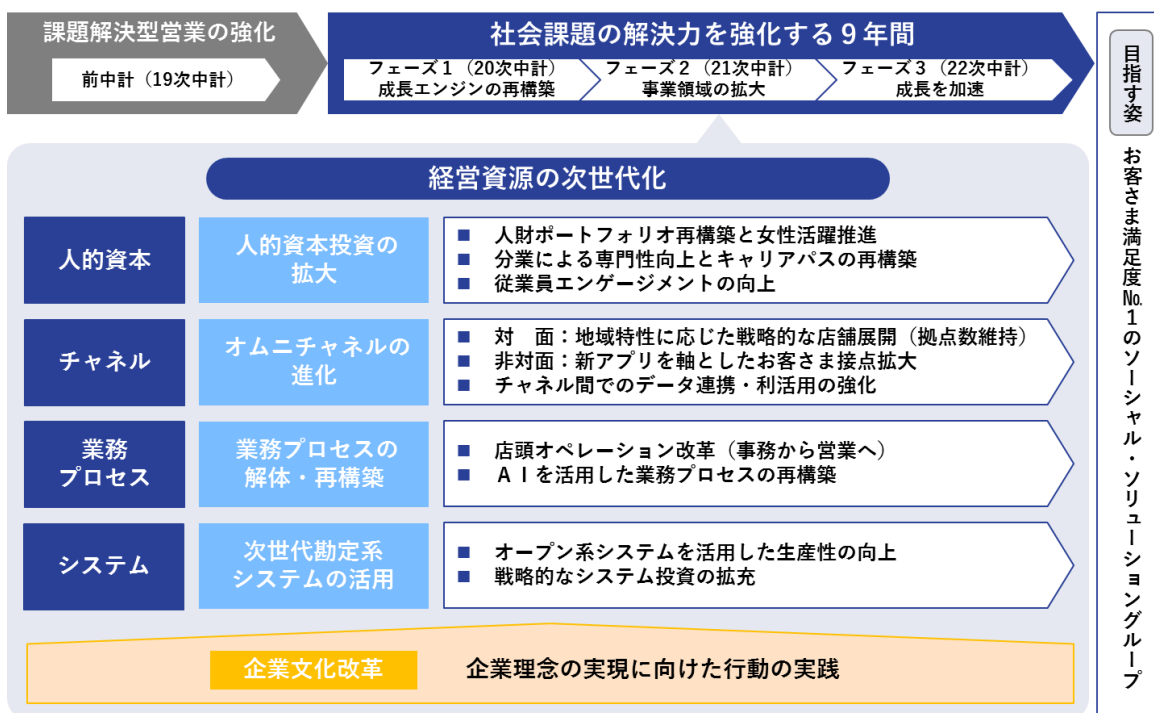
お客さま満足度 No. 1 の ソーシャル・ソリューショングループ

長期ビジョンに込めた思い

- 私たちの使命は、いつの時代も「地域の豊かな未来とともに築く」ことです。
- 社会課題の解決を起点にすべてのステークホルダーのエンゲージメント向上と京葉銀行グループの企業価値向上の両立を実現します。



2. 長期ビジョンにおける重点テーマ



Ⅲ. 第20次中期経営計画

長期ビジョンのフェーズ1として、社会課題の解決力強化に向けた成長エンジンの再構築を図るべく、4つの基本戦略を軸とした第20次中期経営計画「+α Vision 90」フェーズ1～挑戦と変革～を定めました。

1. 計画期間

3年間（2024年4月～2027年3月）

2. 4つの基本戦略



Ⅳ. 計画計数（中長期のターゲット）

財務KPIとサステナビリティKPIの実現により、企業価値の最大化を目指してまいります。

			中計目標(2026年度)	長期目標(2032年度)
財務 KPI	資本効率性	連結ROE*1	4%	6%
	収益性	連結当期純利益	120億円	200億円
	健全性	連結自己資本比率	10%台	10%台
サステナビリティ KPI	地域経済・社会	ビジネスマッチング件数	4,000件	-
		経営計画策定サポート先数*2	1,200先	-
		事業承継ソリューション件数*3	500件	-
		地域共創ソリューション件数*4	400件	-
		預かり資産残高	6,500億円	-
	ダイバーシティ & インクルージョン	従業員エンゲージメント*6	80%以上を維持	-
		女性管理職比率	12%	30%
	環境保全	ESG投融資実行額*7 うち環境分野向け	-	2030年度目標 14,000億円 7,000億円
		CO ₂ 排出量削減率*8	-	2030年度目標 50%削減

*1 株主資本ベース

*2 経営改善計画を含む経営計画策定支援先数

*3 事業承継、M & Aの支援件数

*4 産学連携、企業誘致などのソリューション提供件数

*5 遺言信託、資産整理、家族信託などの成約件数

*6 従業員エンゲージメント調査にて「当行で働くことに満足」

と評価した行員の比率

*7 環境分野向け、医療・介護分野向け投融資等、ESGに資する投融資における2019年度からの累積実行額


※目標を7,000億円から14,000億円に上方修正し、環境分野向けを新設

*8 2013年度比

【参考】理念体系、位置づけ




以上

プラス  で、未来をともに。

京葉銀行

長期ビジョン

「+ α Vision 90」～未来創造への挑戦～


プラス  の価値を提供し、地域の豊かな未来をともに築く

お客さま満足度 No. 1 の ソーシャル・ソリューショングループ

「+ α Vision 90」～未来創造への挑戦～

長期ビジョンの位置づけ

企業理念の実現に向け、創立90周年に目指す姿を長期ビジョンとして明確化

企業理念 プラス  の価値を提供し、地域の豊かな未来をともに築く

私たちが
大切に
する価値観

お客さま第一

すべての原点は
「お客さまのために」

挑戦と成長

たゆまぬ挑戦で
「成長を喜びに」

チームワーク

風通しの良い組織で
「多様性を力に」

長期ビジョン

「+α Vision 90」

～未来創造への挑戦～

創立90周年に目指す姿

【目指す姿】

お客さま満足度No.1のソーシャル・ソリューショングループ

【ターゲット】

社会
価値

サステナビリティKPI

- 様々な社会課題の解決に向けた取り組み

財務KPI

- 連結ROE 6%
- 連結当期純利益200億円
- 連結自己資本比率10%台

経済
価値

第20次中期経営計画

「+α Vision 90」フェーズ1

～挑戦と変革～

創立90周年に目指す姿の実現に向けた
フェーズ1の3ヵ年計画

【計画期間】

- 2024年4月～2027年3月（3年間）

【位置づけ】

- 成長エンジンの再構築

これまでの歩みと今後の方向性

プラスαの価値を提供し、地域の豊かな未来をともに築く

<政府> 成長と分配の好循環

<法人> 生産性の向上・事業再生
<個人> 資産運用ニーズの高まり

より専門性の高いソリューション
伝統的な預貸金業務

長引く低金利環境（マイナス金利）

金利のある世界

15/3
千葉みなと本部竣工



23/3
創立80周年



33/3
創立90周年

社会課題の解決力強化

経営資源の次世代化

長期ビジョン

「+α Vision 90」

～未来創造への挑戦～

24/4～33/3（9年間）

取引基盤の拡大

第17次中期経営計画
～変革と実行～
（15/4～18/3）

コンサルティングの
拡大

第18次中期経営計画
～さらなる飛躍～
（18/4～21/3）

課題解決型営業の
強化

第19次中期経営計画
～さらなる進化～
（21/4～24/3）

経済価値の追求から
社会価値と経済価値の両立へ

本部組織中心の改革から
営業現場中心の改革へ

京葉銀行グループが創立90周年に目指す姿

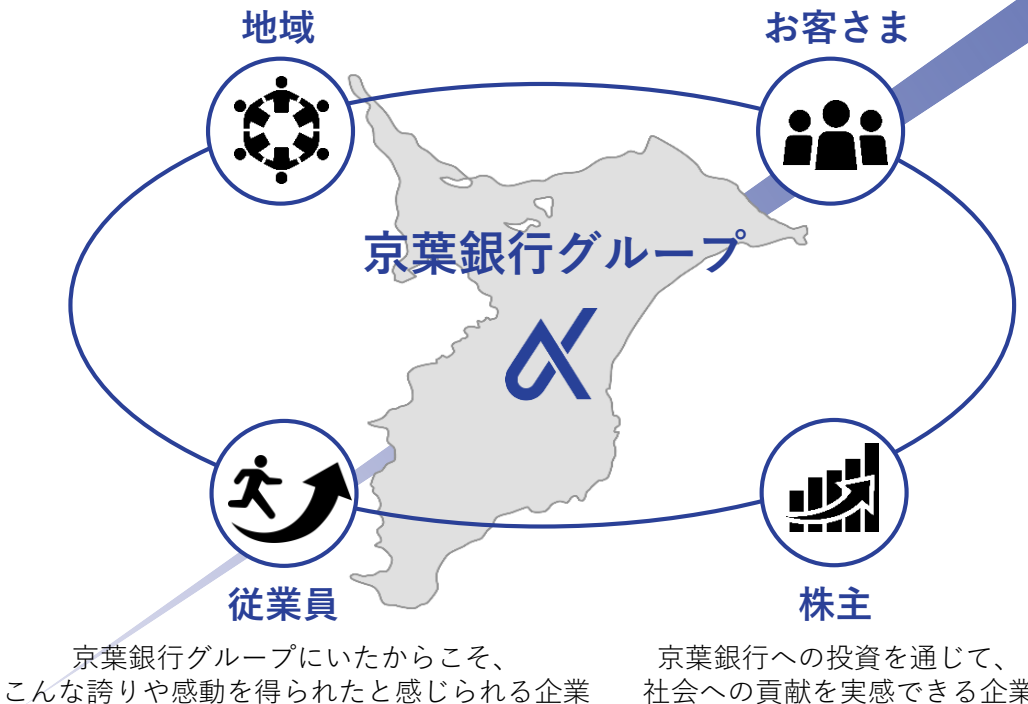
「社会課題の解決」を起点とするビジネスモデルを強化

長期ビジョンに込めた想い

- 私たちの使命は、いつの時代も「地域の豊かな未来とともに築く」ことです。
- 社会課題の解決を起点にすべてのステークホルダーのエンゲージメント向上と京葉銀行グループの企業価値向上の両立を実現します。

地域の将来ビジョンを、
地域とともに具体的に考え、行動する企業

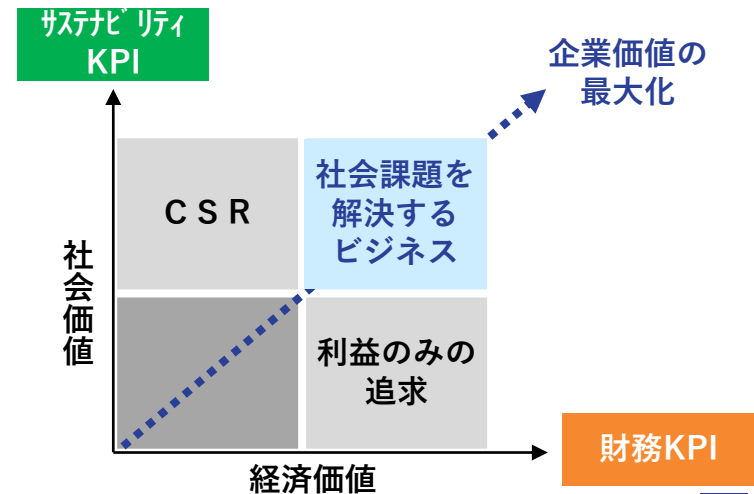
オンリーワンのサービスを提供する
お客さま満足度No.1の企業



企業理念

プラス  の価値を提供し、
地域の豊かな未来とともに築く

社会価値と経済価値の両立



社会課題を踏まえたマテリアリティ

「どのような社会課題を重点項目とするか」を改めて明確化



社会課題の抽出

社会課題の特定


マテリアリティ (重点項目)

- 人口減少・少子高齢化
- 後継者不足
- お一人様世帯、空き家の増加
- 医療・福祉ニーズの増加
- 待機児童の増加
- 人手不足
- 金融政策の転換
- 生産性の向上
- 資産形成ニーズの高まり
- 事業再構築
- デジタル化の進展
- キャッシュレス化の進展
- ライフスタイルの変化
- 働き方の多様化
- 企業の社会的責任の高まり
- 低炭素・循環型社会への移行

京葉銀行グループの企業理念や全役職員の声を踏まえて「**解決したい課題**」を特定

京葉銀行グループとの親和性

京葉銀行グループ企業理念

プラス  の価値を提供し、
地域の豊かな未来とともに築く

全役職員の声

- 全職員向けアンケートの実施
- サステナビリティ委員会での議論

京葉銀行グループの強み

- 強固なお客さま基盤
- 地域に密着した店舗ネットワーク
- 主要マーケットのポテンシャル
- 地域に根差したソリューション人財
- グループ一体での多様な情報・ソリューション
- 健全な財務基盤

地域経済・社会

地域経済の発展











ダイバーシティ&インクルージョン

自分らしく活躍 できる社会づくり









環境保全

低炭素・循環型社会 の実現











提供していきたい主な価値

3つのマテリアリティ（重点項目）に対する具体的なアプローチ

地域経済・社会

取引先企業の生産性向上

経営課題ソリューション



経営計画の策定支援を軸に、川上から川下まで一貫した総合金融サービスを提供

県内の雇用機会の創出

地域共創ソリューション



地域振興案件を自ら生み出し、プロジェクトの中心的な存在として地域振興を実践

個人保有資産の向上

高齢者向けソリューション



相続や事業承継対策に加え、安心した老後生活をサポートするサービスを提供

ライフプランソリューション



人生100年時代における様々なライフイベントへ対応しお客さまの夢の実現をサポート

ダイバーシティ&インクルージョン

イノベーションの創出

誇り・自己実現



京葉銀行グループにいたからこそ感じられる誇りや自己実現の場を提供

女性活躍推進



女性活躍推進におけるリーディングカンパニーとなり県内のイノベーションを牽引

環境保全

お客さまと当行のCO₂削減

環境対応ソリューション



お客さまと当行グループのCO₂削減を図ることで、低炭素・循環型社会を実現

長期ビジョンにおけるターゲット

財務KPIとサステナビリティKPIの実現により、企業価値を最大化

財務KPI

長期目標
(2032年度)
連結ベース

資本効率性

ROE*¹ 6%

収益性

当期純利益 200億円

健全性

自己資本比率 10%台

サステナビリティKPI

重点項目	主な目的	具体的な取り組み	中期目標(2026年度)	長期目標
地域経済 ・ 社会	取引先企業の生産性向上	ビジネスマッチング件数	4,000件	-
		経営計画策定サポート先数* ²	1,200先	-
	県内の雇用機会の創出	事業承継ソリューション件数* ³	500件	-
		地域共創ソリューション件数* ⁴	400件	-
個人保有資産の向上	預かり資産残高	6,500億円	-	
	相続関連商品成約件数* ⁵	2,000件	-	
ダイバーシティ & インクルージョン	イノベーションの創出	従業員エンゲージメント* ⁶	80%以上を継続	-
		女性管理職比率	12%	2032年度 30%
環境保全	お客さまのCO ₂ 削減	ESG関連投融資実行額* ⁷ うち環境分野向け	-	2030年度 14,000億円 7,000億円
	当行グループのCO ₂ 削減	CO ₂ 排出量削減率* ⁸	-	2030年度 50%削減

*¹株主資本ベース

*⁵遺言信託、資産整理、家族信託などの成約件数

*⁷環境分野向け、医療・介護分野向け投融資等、ESGに資する投融資における2019年度からの累積実行額

*²経営改善計画を含む経営計画策定支援先数

*⁶従業員エンゲージメント調査にて「当行で働くことに満足」と評価した行員の比率

※目標を7,000億円から14,000億円に上方修正し、環境分野向けを新設

*³事業承継、M&Aの支援件数

*⁴産学連携、企業誘致などのソリューション提供件数

*⁸2013年度比

長期ビジョンにおける重点テーマ

経営資源の次世代化により、社会課題の解決力を強化

課題解決型営業の強化

前中計（19次中計）

社会課題の解決力を強化する9年間

フェーズ1（20次中計）
成長エンジンの再構築

フェーズ2（21次中計）
事業領域の拡大

フェーズ3（22次中計）
成長を加速

目指す姿

お客さま満足度No.1のソーシャル・ソリューショングループ

経営資源の次世代化

人的資本

人的資本投資の
拡大

- 人財ポートフォリオ再構築と女性活躍推進
- 分業による専門性向上とキャリアパスの再構築
- 従業員エンゲージメントの向上

チャンネル

オムニチャネルの
進化

- 対面：地域特性に応じた戦略的な店舗展開（拠点数維持）
- 非対面：新アプリを軸としたお客さま接点拡大
- チャンネル間でのデータ連携・利活用の強化

業務
プロセス

業務プロセスの
解体・再構築

- 店頭オペレーション改革（事務から営業へ）
- AIを活用した業務プロセスの再構築

システム

次世代勘定系
システムの活用

- オープン系システムを活用した生産性の向上
- 戦略的なシステム投資の拡充

企業文化改革


企業理念の実現に向けた行動の実践

プラス  で、未来をともに。

京葉銀行

第20次中期経営計画

「+ α Vision 90」フェーズ1 ～挑戦と変革～

プラス  の価値を提供し、地域の豊かな未来をともに築く

新中計の位置づけ

経営資源の次世代化により、社会課題の解決力を強化する9年間のフェーズ1

課題解決型営業の強化

前中計（19次中計）

社会課題の解決力を強化する9年間

フェーズ1（20次中計）
成長エンジンの再構築

フェーズ2（21次中計）
事業領域の拡大

フェーズ3（22次中計）
成長を加速

目指す姿

お客さま満足度No.1のソーシャル・ソリューショングループ

経営資源の次世代化

人的資本

人的資本投資の
拡大

- 人財ポートフォリオ再構築と女性活躍推進
- 分業による専門性向上とキャリアパスの再構築
- 従業員エンゲージメントの向上

チャンネル

オムニチャンネルの
進化

- 対面：地域特性に応じた戦略的な店舗展開（拠点数維持）
- 非対面：新アプリを軸としたお客さま接点拡大
- チャンネル間でのデータ連携・利活用の強化

業務
プロセス

業務プロセスの
解体・再構築

- 店頭オペレーション改革（事務から営業へ）
- AIを活用した業務プロセスの再構築

システム

次世代勘定系
システムの活用

- オープン系システムを活用した生産性の向上
- 戦略的なシステム投資の拡充

企業文化改革

企業理念の実現に向けた行動の実践

社会課題

少子高齢化・後継者不足

人手不足・生産性の向上

金融政策の転換

資産形成ニーズの高まり

物価の上昇

働き方の多様化

デジタル化

脱炭素

第20次中期経営計画

「+ α Vision 90」フェーズ1 ～挑戦と変革～

計画期間

2024年4月～2027年3月（3年間）

4つの基本戦略

① オンリーワンの課題解決型営業

地域共創ソリューション

法人ソリューション

個人ソリューション

② 営業改革

店舗営業体制の見直し

デジタル化推進

3つの
改革

③ 人財改革

多様なプロ人財の育成

社内環境の整備

④ 経営基盤改革

資本マネジメント

経費コントロール

りそなHDとの戦略的業務提携

ガバナンス・リスク管理態勢

計画計数（中長期的なターゲット）

計画計数（中長期的なターゲット）

			中計目標(2026年度)	長期目標(2032年度)
財務KPI	資本効率性	連結ROE*1	4%	6%
	収益性	連結当期純利益	120億円	200億円
	健全性	連結自己資本比率	10%台	10%台
サステナビリティKPI	地域経済 ・ 社会	ビジネスマッチング件数	4,000件	-
		経営計画策定サポート先数*2	1,200先	-
		事業承継ソリューション件数*3	500件	-
		地域共創ソリューション件数*4	400件	-
		預かり資産残高	6,500億円	-
		相続関連商品成約件数*5	2,000件	-
	ダイバーシティ & インクルージョン	従業員エンゲージメント*6	80%以上を維持	-
		女性管理職比率	12%	30%
	環境保全	ESG投融資実行額*7 うち環境分野向け	-	2030年度目標 14,000億円 7,000億円
		CO ₂ 排出量削減率*8	-	2030年度目標 50%削減

*1株主資本ベース

*5遺言信託、資産整理、家族信託などの成約件数

*7環境分野向け、医療・介護分野向け投融資等、ESGに資する投融資における2019年度からの累積実行額

*2経営改善計画を含む経営計画策定支援先数

*6従業員エンゲージメント調査にて「当行で働くことに満足」と評価した行員の比率

※目標を7,000億円から14,000億円に上方修正し、環境分野向けを新設

*3事業承継、M&Aの支援件数

*82013年度比

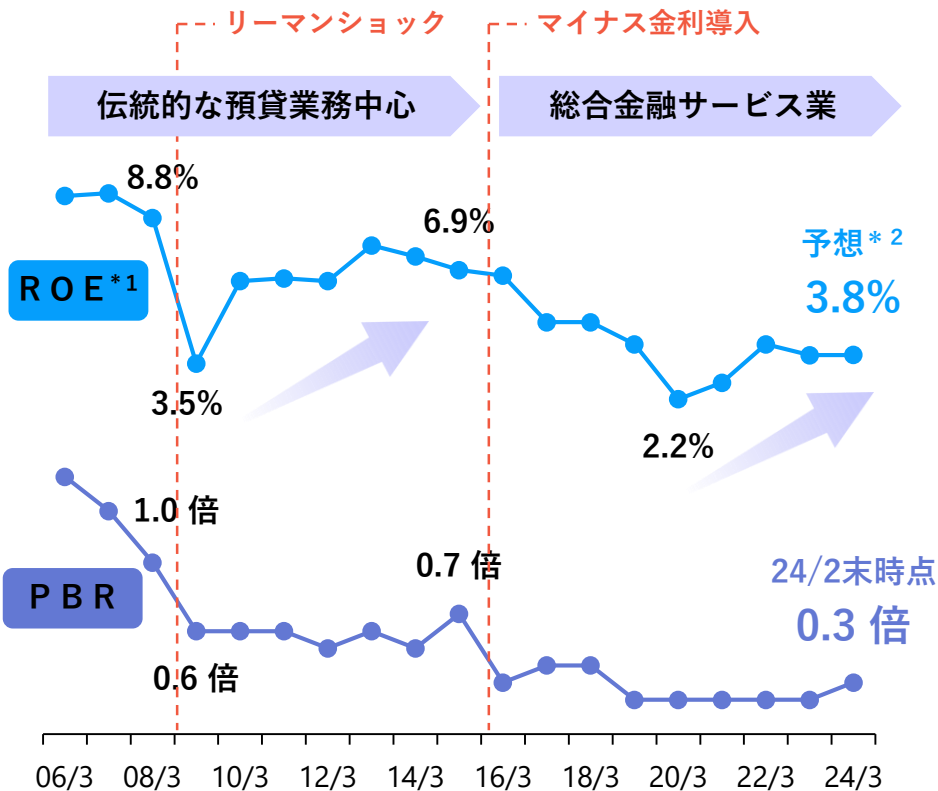
*4産学連携、企業誘致などのソリューション提供件数

企業価値向上に向けた取り組み

ROEは改善基調である一方、PBRは低調に推移

現状分析

- 持続可能なビジネスモデルの構築を着実に進めてきたことで、ROEは改善基調。一方で、金融業界に厳しい経営環境が続く、PBRについては低水準で推移。



*1株主資本ベース

*22023年度第3四半期決算にて公表している連結当期純利益の予想に基づき試算

PBR改善に向けて

➤ PBRの計算式

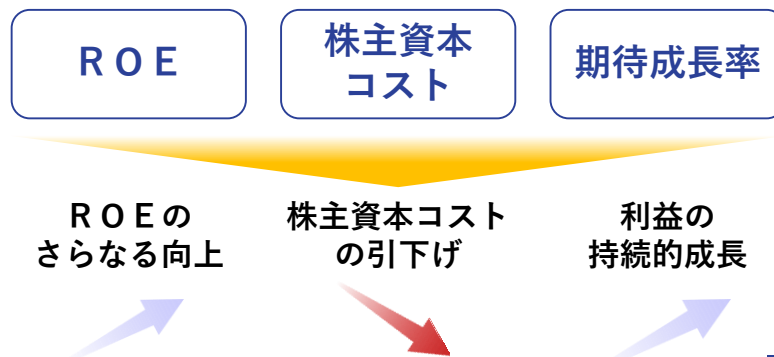
$$PBR = ROE \times PER$$

$$= ROE \div \left[\text{株主資本コスト} - \text{期待成長率} \right]$$

$$ROE \geq \left[\text{株主資本コスト} - \text{期待成長率} \right] \quad \text{PBR 1倍以上}$$

➤ PBRの改善に向けた考え方

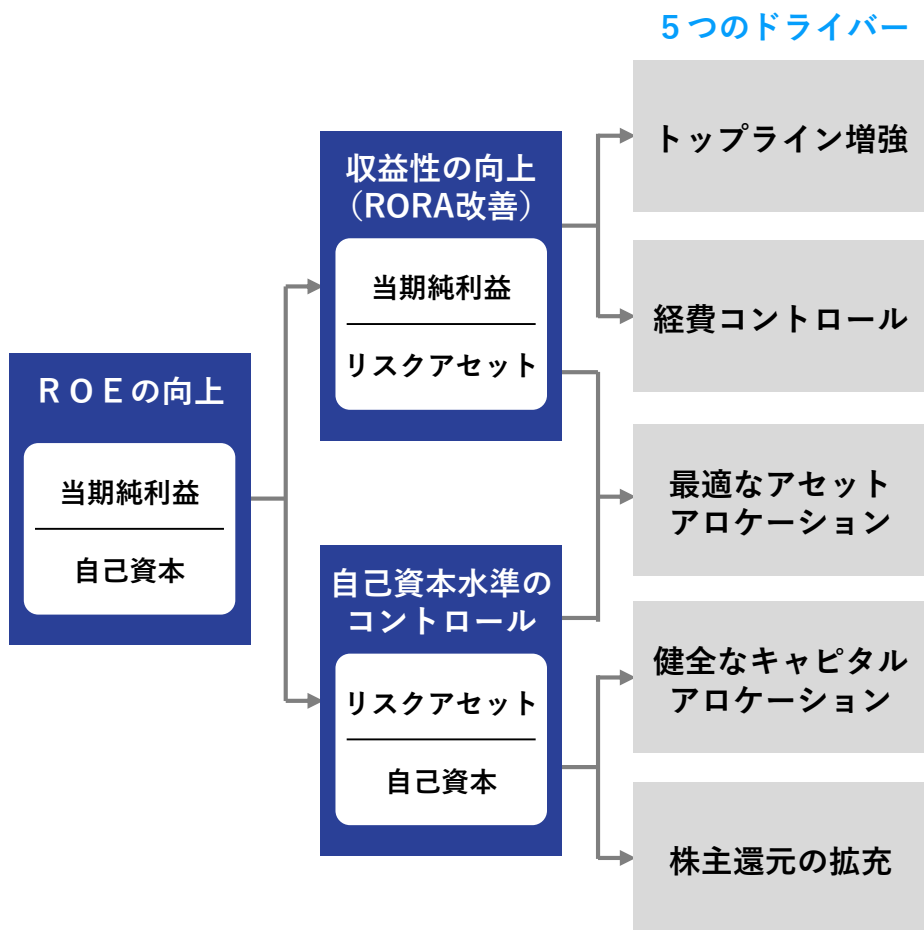
- 持続的な利益成長とともに、ROEの向上と株主資本コストの引下げに取り組み、PBR改善を図る



PBR改善に向け、ROEのさらなる向上と株主資本コスト引下げを強化

ROE向上に向けたロジックツリー

- 5つのドライバーを強化する経営戦略を実行し、ROEのさらなる向上を目指す



株主資本コストの引下げ

➤ 株主資本コストの現状認識

CAPMに基づく当行の独自試算

6%程度

➤ 株主資本コストの引下げに向けた取り組み

- 情報開示の充実と市場との適切な対話により、京葉銀行グループの成長戦略に対する蓋然性を高め、株主資本コストの引下げを図る

情報開示の充実

業績の不確実性の抑制
サステナビリティへの理解向上

株主・投資家との
コミュニケーション強化

成長戦略への理解向上
タイムリーな情報開示

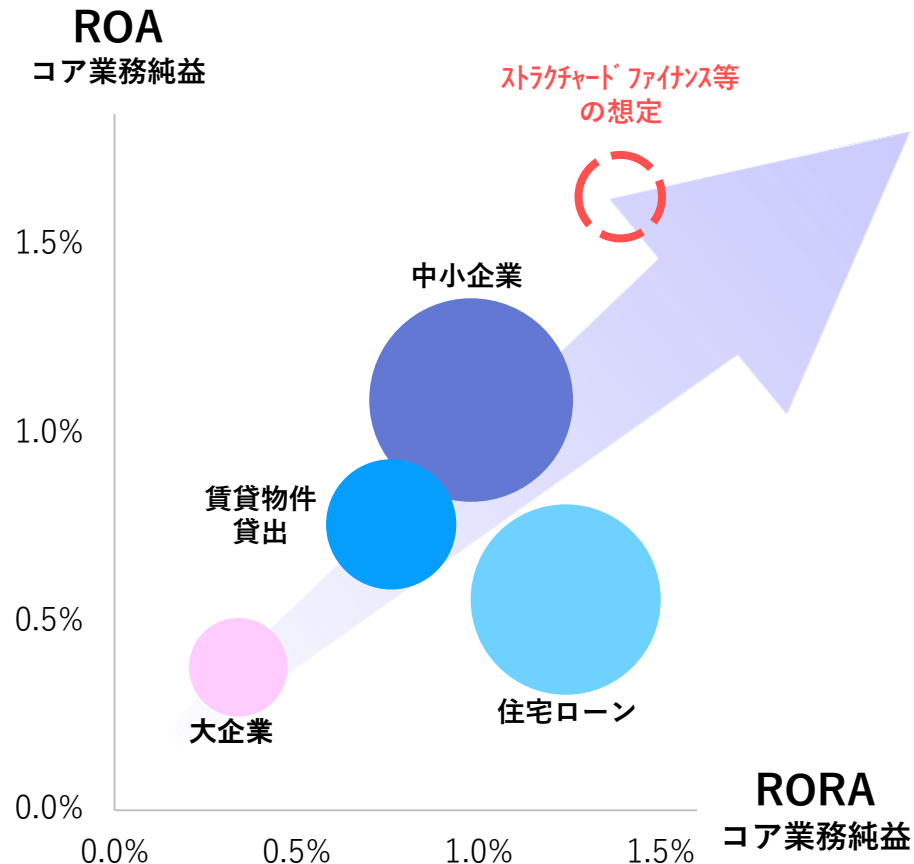
情報の非対称性緩和 + 成長戦略の蓋然性向上

株主資本コストを踏まえたROE目標達成に向け、経営戦略を着実に実行

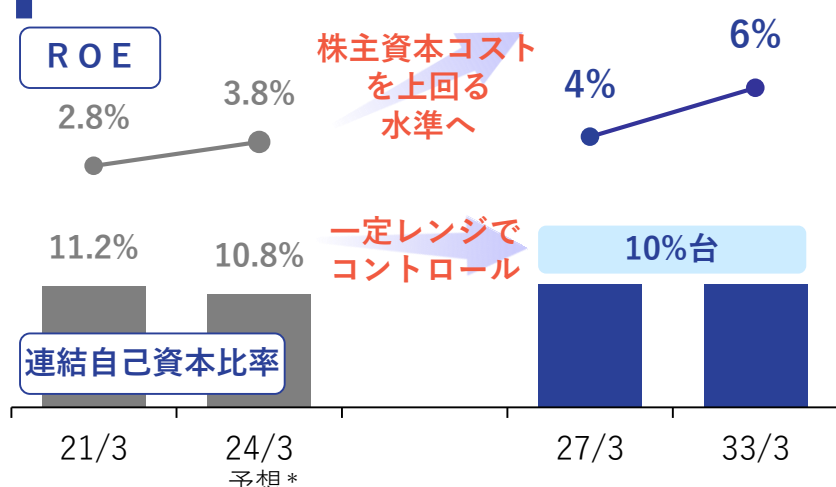
利益水準の引き上げ



セグメント別RORA



ROE向上・自己資本比率水準コントロール



*24/3 予想数値について

- ・連結当期純利益：2023年度第3四半期決算にて公表している予想数値
- ・ROE：2023年度第3四半期決算にて公表している連結当期純利益の予想に基づき試算
- ・連結自己資本比率：2023年度第3四半期決算における実績

健全性の維持と成長投資の機会を考慮しつつ株主還元を拡充

株主還元

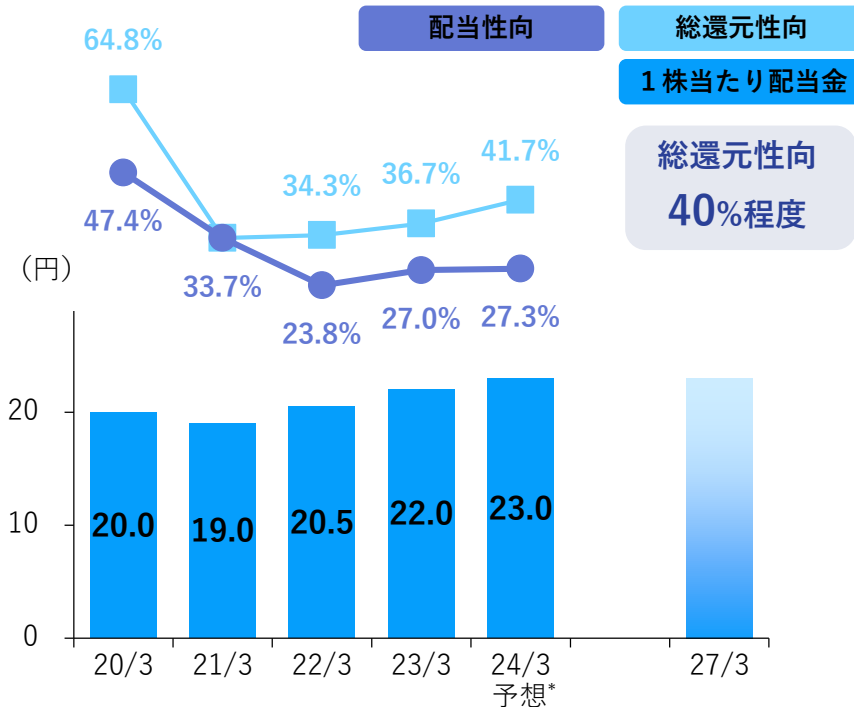
第19次中計

■ 安定配当を基本としつつ、配当性向30%以上を目安

第20次中計

■ 安定配当を基本としつつ、総還元性向40%程度とする

配当金の状況



*期末配当が第118期株主総会で承認される条件下での試算数値

政策保有株式

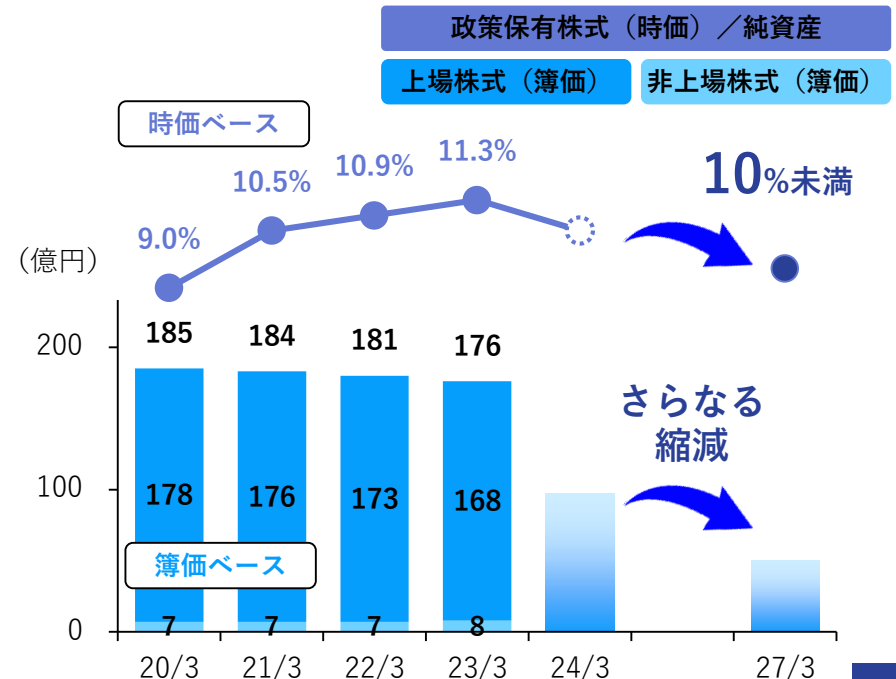
第19次中計

取引先および当行グループの企業価値の維持・向上に資すると判断される場合や、地域の開発、振興に寄与し発展に貢献するなどの場合において保有

■ 原則として、縮減していくことを基本方針とする


第20次中計

政策保有株式の状況



京葉銀行のコーポレートシンボル



「」の文字が描く重なりと上方へ伸びてゆくラインは、人と人との“きずな”と、そこを出発点に無限に伸びてゆく未来をあらわしています。

コーポレートシンボルの「アルファバンク」は、
“人とのきずなを大切に、豊かな未来を切り拓いてゆきたい”
“常に皆さまにプラスアルファを提供し続ける銀行でありたい”
そんな京葉銀行の思いをあらわしています。

プラス  で、未来をともに。

＜本資料に関する照会先＞
株式会社 京葉銀行 経営企画部
TEL：043-306-8061

本資料には将来の業績に関わる記述が含まれていますが、こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。また、本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券を推奨するものではありません。